# 第1分科会

# 棚田の保全:鳥獣害から棚田を守る

- 第17回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会 主催
- 平成 23 年 10 月 28 日 (金) 14:00~16:30 日時
- 会場 旭集会室
- テーマ 棚田の保全:鳥獣害からの棚田を守る。
- 分科会のねらい

中山間地域では人口減少や生活様式の変化により、自然に対する人間の働きかけが縮 小し、鳥獣害による農作物被害が深刻化している。鳥獣害には、イノシシ、サル、シカ などによる被害が顕著であるが、本第1分科会では、近年、被害が急増しているシカ害 に焦点をあて、主として棚田・集落・里山をシカ害から守る対策について議論する。対 策は、主に被害現場対策である「短期対策」と、一方で集落単位の計画的な対策である 「中長期対策・活用」について議論する。

### 登壇者(情報提供・パネルディスカッション)



<コーディネータ> 奥村栄朗氏(森林総合研 究所四国支所チーム長)



熱田尚子氏(西粟倉・森 の学校)



西利一氏(上勝町福原地 区在住)



森一生氏 (徳島県西部総 合県民局環境担当)

: 奥村栄朗氏

### ■ プログラム

15:10

15:20

(分科会参加者のみなさんからの質問・コメントのカード記入お願いします)

14:00 開会・はじめに

14:10【第1部】情報提供・共有

(1) 野生生物被害~過去から学び、これからを考える~

(2) 西粟倉村における鳥獣被害とその対策について

上勝町における獣害(シカ害)について (3)

(4) 徳島県における獣害 (ニホンジカ) 対策 休憩

: 熱田尚子氏 : 西利一氏 : 森一生氏

【第2部】パネルディスカッション「シカ害から棚田・集落を守る」 短期対策、中長期対策・シカの活用

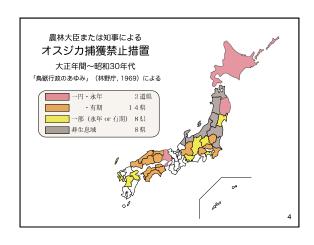
16:20おわりに

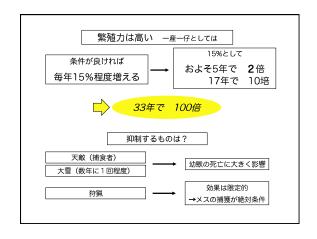
16:30閉会

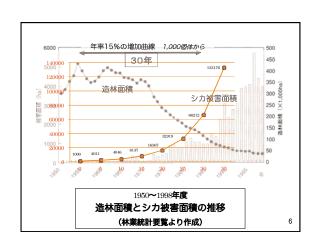












### 総合的な被害対策とは?

- 1)個別の被害を防ぐ的確な被害防除技術
- 2)適切な捕獲圧による個体数の調整
- 3)長期的な視点での生息地(森林)環境の適切な管理

7

総合的な被害対策とは?

1)個別の被害を防ぐ的確な被害防除技術

<かつて被害防除には多大の労力が払われてきた>

農作物被害・・・個別の物理的な防御手段では限界

→ 誘因物の管理~耕地・作物から環境まで

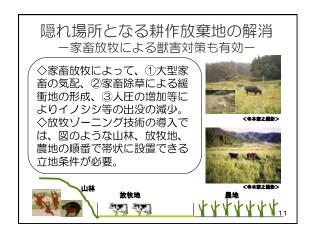
→ 集落全体での被害防除へ (→ 耕地、集落の再配置)

<動物にとって近づきにくく、魅力のない里づくり>

2)適切な捕獲圧による個体数の調整
3)長期的な視点での生息地(森林)環境の適切な管理





















### ●行政としての対策とその課題

・捕獲:捕獲に対して奨励金

猟友会員の高齢化、担い手の減少で、対応しきれていない。

・防護柵:村から資材費の1/2以内の補助 高齢化で設置・管理が困難。地理的条件から、団体ではなく個 人での申請が多い。完全には防げない。





### ●自分たちでできる対策

### ・捕獲を促進

ただの駆除ではなく、おいしく食べる方法、きれいに加工する 方法を開発。

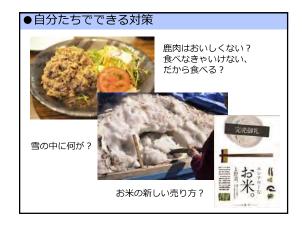
### ・防護柵をみんなで設置

できるだけ集落ごとなどの団体で購入・設置する。コスト軽減、 協力して設置。

### ・耕作

・ がTI F 減反、転作に負けない。お客さんと直接つながり、 正当な値段で、張り合いをもって農業をする。 売り方を工夫し、モチベーションも稼ぎも上げる。 耕作面積を増やし、隠れ場をなくす。









# 上勝町における獣害(シカ害)について



(上勝町福原地区在住) かみかつ里山倶楽部 西 利一



シカ剥皮被害

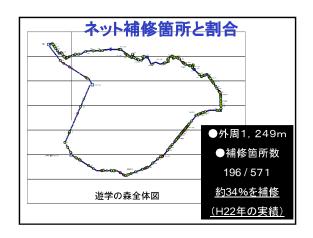








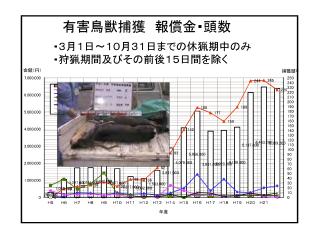






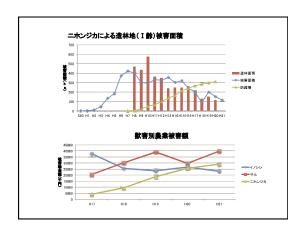


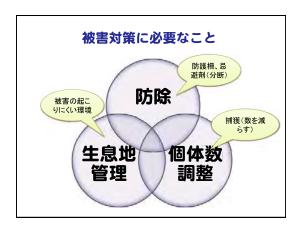


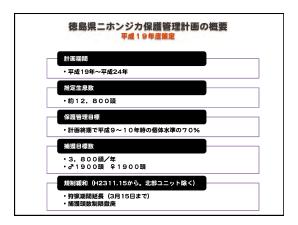


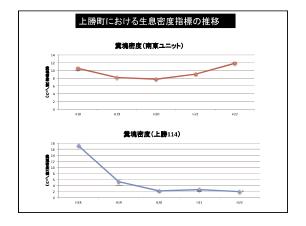




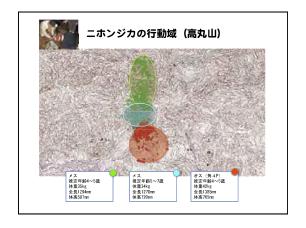














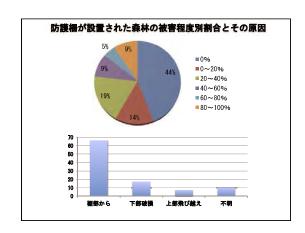
## 防除と個体数調整のバランスが大事

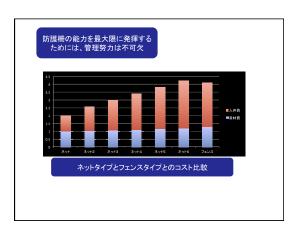
ニホンジカは1頭で3~5kg摂食する。 個体数調整は防除を効果的に実施するための手 段。

### 必要なこと

防除目的に合った資材の選択と管理の徹底。







# 第2分科会

棚田の価値:棚田を守る価値とその共有

第17回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会 主催

日時 平成 23 年 10 月 28 日 (金) 14:00~16:30

コミュニティーセンター 場所

■ テーマ 棚田の価値:棚田を守る価値とその共有

■ 分科会のねらい

棚田は棚田の食糧生産・国土保全・保水・水源涵養・洪水調節・景観・交流活用など の多面的機能・多面的価値を持つ。上勝町樫原地区は、「四国の勝浦川上流部の典型的 な棚田・山村で、200年以上変化していない希有な事例(文化庁)」として、平成22年 2月22日に重要文化的景観に選定された。

本第2分科会では、これら多面的価値の中から、登壇者の紹介する棚田価値情報をも とに、「棚田の素晴らしさ(棚田を守る価値)」「棚田の価値の共有」について議論する。

### 登壇者(情報提供・パネルディスカッション)



<コーディネータ> 澤田俊明氏 (徳島大学客員教授)



平元美紗緒氏 (秋田・大森町グリーン ツーリズム推進協議会)



中内英夫氏 (上勝町旭地区在住)



平井松午氏 (徳島大学教授)

### ■ プログラム

(分科会参加者のみなさんからの質問・コメントのカード記入お願いします)

- 14:00 開会・はじめに
  - 【第1部】情報提供・共有
  - (1) 棚田を見る眼、小さな価値の集まり small is beautiful :澤田俊明氏
  - (2) 秋田県横手市大森町塚須沢集落 天水米の里~オーナー制度から見る棚田の価値:平元美紗緒氏
  - (3) 高丸山と八重地の棚田

: 中内英夫氏

(4) 上勝町における棚田の文化的景観としての価値

: 平井松午氏

- 15:10休憩
- 15:20【第2部】パネルディスカッション 棚田を守る価値、棚田の価値の共有
- 16:20おわりに
- 16:30閉会



2011年10月28日 第17回棚田サミット(第2分科会)

# 棚田を見る眼、小さな価値の集まり small is beautiful

澤田俊明 (有)環境とまちづくり 徳島大学客員教授

1

## あなたはどちらが好きですか

良い自然の環境	悪い自然の環境
きれいな水	汚れた水
きれいな空気	汚れた空気
生物が住みやすい所	生物が住みにくい所
安全な食べ物	安全でない食べ物
緑が多い所	緑が少ない所
人の顔が見える所	人の顔が見えない所
きれいな所	汚れた所

2

### 棚田の価値

- ・ I. 資源の価値【棚田の基盤サービス】
  - 生活の場(棚田、集落、里山、奥山)
  - 食糧生産、国土保全、水源涵養、洪水調節、生物生息空間
  - 景観、文化的景観(歴史、自然、生業)、など **(平井報告)**
- Ⅱ.活用の価値【棚田の利用サービス】
  - 都市農村交流、棚田オーナー、ツーリズム、健康増進、リラクセーションなど (平元報告)
- Ⅲ.保全活動の価値【今日的価値・意味】(中内報告)

これらは多面的で小さな価値

3

## 価値の二つ見方(評価)

- ・1元的な見方
  - 環境(棚田)と主体(生物・人間)を個別にみる
    - ・棚田要素をパラバラに分解して個別にみる
    - ・主体(生物・人間)に関係なく、環境(棚田)の価値は同じ
    - ・棚田をモノとしてみる
- ・ 2元的な見方
  - 環境と主体(生物・人間)の交互作用
  - 環境と生物を<u>一体としてとらえる</u>
    - ・利用者生物(人間)との関係で、環境(棚田)の価値は異なる
    - ・例 小さな橋、アフォーダンス

4

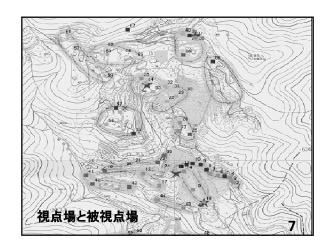
# 棚田の価値を人間との関係でみる 【現地で探索】

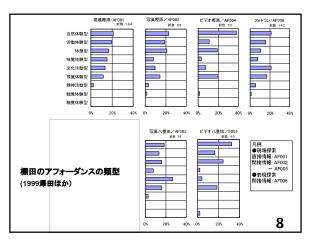
視点場(人間の眼) 誘発行動(アフォーダンス)

5

### 人間の視線は水平でない 多くの視点場を持つ棚田







### 多様な価値と合意形成(存在の共有)

- ・ 合意形成における価値(合意形成マネジメント協会)
  - 多様な価値の存在を認めながら、
  - 人々の立場の根底に潜む価値を掘り起こして、
  - その情報を共有し、
  - お互いに納得できる解決策を見いだしていくプロセス



上勝ブルー

9

# 価値共有のルール

石垣島・白保魚湧く海 保全協議会の例(利用のルール)

- 観光業者のルール
- 漁やおかずとりをする人のルール
- 海で遊ぶ人のルール
- 研究者のルール



2010年白保学講座での意見交換 白保協議会~環境とまちづくりスタッフ



白保海岸沿いの農地

10

# 棚田の畔に凝縮される調和 棚田の畔に見る「観面混合」

- ・ 棚田の畔:真上から=曲線、水平から=直線
- ・ 棚田の畔: 自然一人間、自然一人工、曲線一直線



11

## 棚田=自然と人間活動との調和

### (今西錦司)

- ・ 自然と人間とが、
- 数百年もの昔から、はたらきあい
- ・ 何度もやりなおしを重ねたうえで、
- ようやく作りだすことのできた、
- ・ 細かいところまでゆきとどいた
- ・調和の美しさが、
- ・ 風景のうえにしみだしている



(八重地の棚田)





### お話しする内容

- ・大森町の概要 ~すごいお母さんたちがいる
- ・大森町の棚田オーナー制度 ~秋田県初の試み
- ·棚田オーナーのみなさん ~感想集
- ・棚田の価値と可能性 ~地域のシンボル

### 大森町の概要 ~すごいお母さんたちがいる



平成22年11月 明治神宮 新嘗祭にて

- 昭和50年代~ 都市農村交流 活動開始
- 平成4年 大森地域生活研究グループ協議会 設立
- **平成11年** 農産物提供グループ 味美会 設立
- **平成14年** 大森町グリーンツーリズム推進協議会 (以下、GT協議会)設立
- 平成19年 JTBからオファー 修学旅行生受け入れ開始
- 平成21年 横手市初の農家民宿 開業 秋田県特産品開発コンクール奨励賞 受賞

平成22年 棚田オーナー制度 開始 農林水産大臣賞(村づくり部門)受賞

# 大森町の概要 ~すごいお母さんたちがいる E5月 仙台の中学生 農産物加工品 商品開発 産直販売施設 野菜蔵 農産物食品加工体験施設

# 大森町の棚田オーナー制度 ~秋田県初の試み ·対象田5枚(約20a) ・雨水で育てる天水米 ・H22オーナー募集ツアー 1 組5千円(天水米2kg) 各回参加費5千円(3名まで) ・H23オーナー制度開始 1組1万円(天水米20kg) 各回参加費2千円(1名) ・GT協議会,集落,行政で 企画委員会を立ち上げ ・田植え〜稲刈りまで 年4・5回のツアー(日帰り) ・現在しくみの検証中 ・棚田保全を通して 当地区の農業・農村に 対する理解を深める





### 棚田オーナーのみなさん ~感想集

- 参加人数 約17名 (秋田市からの参加が多数)
- 参加動機
  - 1位 農作業体験をしたい
  - 2位 オーナー制度に興味がある
- 3位 農村住民との交流がしたい

### 感想

- --1位 昼食がとてもおいしかった
- 1位 地元の対応がとても良かった
- 3位 農作業が大変良かった







### 棚田オーナーのみなさん ~感想集

### ツアー参加の主な理由

- ・秋田市から日帰りで参加できるのが魅力
   ・・子どもに自然体験をさせたい
   ・・ 造ながらの田ん様なら自然がたくさん 残っているのではないかと思った
   ・ 秋田市で田んぼを借められない
   ・ 秋田市で田んぼを借められない
   ・ 被田市で田んぼを借められない

- 着なからの出ればなら自然かたくさん 焼っているのではないかと思った 秋田市で田んぼを借りられない 自分で食べるものを自分でつくりだい ・日帰りで気軽に参加できる ・この地域に興味がある(ハ沢木地区に 伝わる伝統芸能を知っていた)



参加してみての感想

- ・自然のなかだと農作業が楽しい (壁のブランターでは楽しくない) ・一連の農作業を体験できて満足感を得た ・子ともが田んぼに入るのを楽しんでいたのが意外だった ・子ともが自由研究で棚田の模型を作るなどのできたまた。
- 興味を持った 子どもの頃と同じ風景が残っていて
- 初めて来たのに懐かしい 山も田んぼもきちんと手入れされていてきれい

### 棚田の価値と可能性 ~地域のシンボル

### 地域への効果

- ・毎日新聞1面に掲載→全国から問い合わせ6件(米30kg販売)
- ・GT推進協議会が全国むらづくり表彰事業「農林水産大臣賞」受賞
- ・味美会 (農産物直売) 会員3人増
- ・集落外から人が来ることで地域がいきいきとしてきた (集落総出でイベントづくり)
- ・集落出身の大学生が大森町の棚田オーナー制度を卒業研究の題材に

### オーナー制度から見る棚田の価値と可能性

- 「昔ながらの田んぼ」というイメージ
- 「不便である」からサポートが必要になる
- 「この土地の暮らし向き」を知るユニークで美しい地域のシンボル
- ・「オーナーが見つけてくれる」棚田の価値



### 中内 英夫



第2分科会(棚田の価値) 平成23年10月28日(金)

# 高丸山と八重地の棚田

上勝町旭地区 中内 英夫 Hideo Nakauchi

# 八重地と林業

〈以前〉

1

・炭焼き・林業が盛ん



- ・林業衰退化→ 生計が維持できない
- 農業 林業 水産業



ARRETARE

4

## 高丸山とブナ林、99年契約

- ・高丸山=ブナ林
- ・ブナ林、水が豊富
- •99年契約
- -プロペラ





ブナ林の水で耕作する棚田

//重地の土地利用図(緑/水田)





### 中内 英夫











# 八重地のこれから (高丸山と棚田の価値を活かす)

- ・風景を守る
- •棚田•畑•里山
- ・人(中の人、外の人)、交流
- ・仕事づくり

第17回棚田サミット 第2分科会「棚田の価値」

2011年10月28日(金) 上勝町コミュニティセンター

# 上勝町における棚田の 文化的景観としての価値

### 平成22年2月22日 文化庁選定

文化財・重要文化的景観「樫原の棚田」(棚田景観)

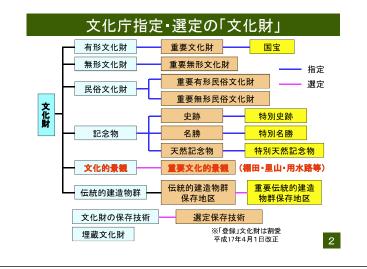




徳島大学大学院SAS研究部

平井 松午(歴史地理学) hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

1



### 「文化的景観」の選定基準

### 「文化的景観」の定義

「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」(文化財保護法第二条第1項第五号より)

- (一)水田·畑地などの農耕に関する景観地(棚田など)
- (二)茅野・牧野などの採草・放牧に関する景観地
- (三)用材林・防災林などの森林の利用に関する景観地
- (四)養殖いかだ。海苔ひびなどの漁ろうに関する景観地
- (五)ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地
- (六)鉱山・採石場・工場群などの採掘・製造に関する景観地
- (七)道・広場などの流通・往来に関する景観地
- (八)垣根・屋敷林などの居住に関する景観地

この中で、とくに重要なものを「重要文化的景観」に選定

平成23年4月1日現在,「重要文化的景観」として全国で24件が選定

世界遺産の日本版

世界遺産への登録(の可能性も)

3

### 重要文化的景観「棚田景観」



出典:中島峰広『日本の棚田』古今書院, 1999年

重要文化的景観「樫原の棚田」 選定理由

### 3 樫原の棚田【徳島県勝浦郡上勝町】

四国の勝浦川上流部は急峻な地形の合間に棚田と農家が散在する地域で、その中の樫原地区には、深い山林に覆われた里山を背景として、樫原谷川へと連続する標高500~700mの急傾斜面上に3つの棚田と居住地が展開する。閉じられた山間の地すべり地形を示す窪地状の地形に、一群の棚田と農家がまとまって展開する農耕と居住の在り方はこの地域の典型的・代表的な土地利用形態を示し、良好な文化的景観を形成している。

樫原の棚田を中心とする土地利用形態の最大の特質は、文化10年(1813)11 月の紀年銘のある『勝浦郡樫原村分間絵図』に描かれた水田の位置・形態、家屋・道・堂宇・小祠の位置などとの詳細な照合が可能なことである。精度高く描かれた詳細な内容と現況との比較により、200年以上もの間、土地利用形態がほとんど変化していないことがわかる。

棚田への水利系統は、樫原谷川から等高線に沿って引かれた14本の用水により精巧に張り巡らされている。樫原の棚田は、全体の面積が大きいのに対し、水田1枚当たりの平均面積が180㎡と小さく、平均勾配は約4分の1と急勾配であり、立地する標高も町内の他事例に比較して最も高いなど、この地域における棚田の中でも特質が見られる。

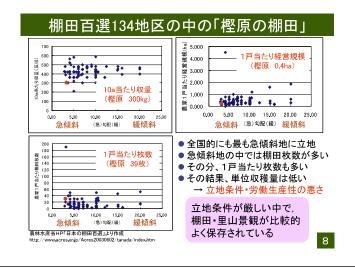
出典:文化庁HP http://www.bunka.go.jp/bunkazai/shoukai/keikan.html

5

### 1686年(貞享3)における村別石高 1686年/1790年代 増減率 寛政期(1790年代) 貞享3年(1686) 村名 田反別 畠反別 反別合計 水田反別 陸田反別 反別合計 田反別 畠反別 反別合計 福原村 9.0600 17,0915 26.1515 12.98 73.2 9.6 野尻村 4.6600 7.5315 12.1915 9.40 18.08 101.7 48.3 8.68 15.2 久保村 2.75 2.64 5.39 1740年 野尻用水開削 瀬津村 5.5127 23,3015 28.8212 6.73 30.85 24.12 22.1 7.0 樫原村 4,3618 2,5116 6.8806 4,81 3,55 8.36 10,3 41.3 21.5 田野々村 15.3360 10.9103 26.2490 21.03 13.21 34.24 37.1 21.1 30.4 市宇村 4,1215 5.6412 9.7627 5,36 2.15 7.51 30.0 -61.9 -23,1 八重地村 2,8500 3,8811 6,7311 6,47 8,61 15,08 127,0 121.8 124,0

資料:上勝町誌p. 61~62。

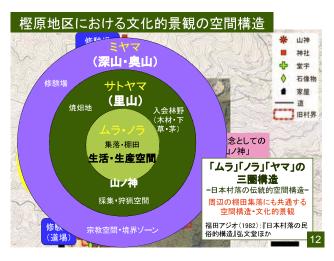
記載なし 単位は反別が町、石高は石。













# 第3分科会

棚田の活用:持続的な活用の組織と担い手育成

■ 主催 第17回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会

■ 日時 平成 23 年 10 月 28 日 (金) 14:00~16:30

■ 場所 旭基幹集落センター

■ テーマ 棚田の活用:持続的な活用の組織と担い手育成

■ 分科会のねらい

多面的な機能を持つ棚田は、その活用においても多様な活用の可能性を持つ。棚田活用のアプローチとして、棚田の取り巻く環境・資源を活用したツーリズム・オーナー制・古民家活用等の多様な交流施策からのアプローチが注目される。

本第3分科会では、持続的な棚田の活用の観点から、各地の棚田活用の事例をもとに活用における「組織」「担い手育成」に着目し議論する。

### ■ 登壇者(情報提供・パネルディスカッション)



<コーディネータ> 広瀬敏通氏(日本エコツ ーリズムセンター・代表



玉木有紀子氏((NP0 法人 越後妻有里山協働機構 理事)



松下和照氏(上勝町生実 地区在住)



高山承之氏(NPO 法人棚 田ネットワーク)

### ■ プログラム

(分科会参加者のみなさんからの質問・コメントのカード記入お願いします)

14:00 開会・はじめに

14:10 【第1部】情報提供・共有

(1) 棚田活用に不可欠な担い手の形成と地域内コンソーシアムの可能性 : 広瀬敏通氏

(2) 他者の土地に関わることの意味~棚田作業と大地の芸術祭から考える : 玉木有紀子氏

(3) 樫原地区における棚田の資源活用

: 松下和照氏

(4) 棚田と周辺をテーマとした交流拡大

: 高山承之氏

15:10 休憩

15:20 【第2部】パネルディスカッション

持続的な活用における「組織」「担い手育成」

16:20 おわりに

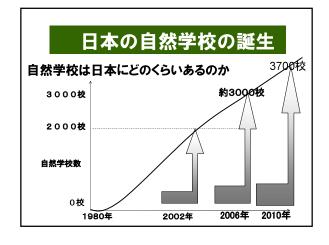
16:30 閉会

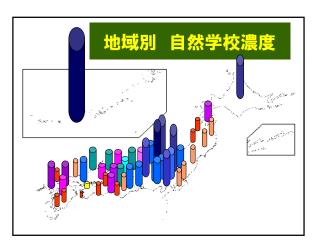




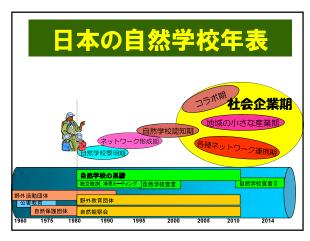


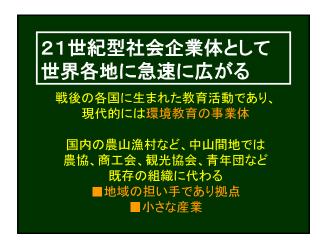
自然学校という 地域の小さな産業が 日本中に急増殖している

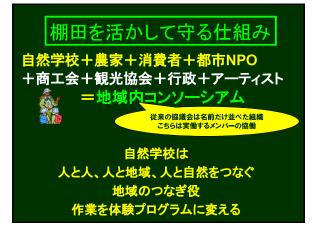




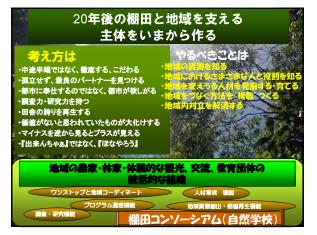






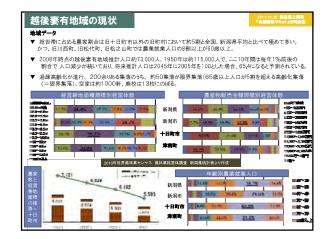






























### 松下和照

第3分科会(活用) 平成23年10月28日(金)

# 樫原地区における 棚田の資源活用



上勝町生実地区 松下和照 Kazuteru Matsushita

1



### 現在の樫原

## 樫原の棚田

人口 33人 17世帯 世帯数 高齢化率 60.1% 標高 500m~700m

### 地域の課題

- **・労働がきつい** ・機械がはいりにくい ・お年寄りが多い ・後継者がいない



3

# 棚田オーナー制(平成23年度)

- ・受け入れ農家 10軒
  - 樫原地区 7軒
  - その他 3軒
- ・オーナー契約 30契約
  - 水田 17契約、畑 1契約
  - 果樹 12契約

(キーウイ4、スダチ3、ユズ3、ウメ2)





### 松下和照

